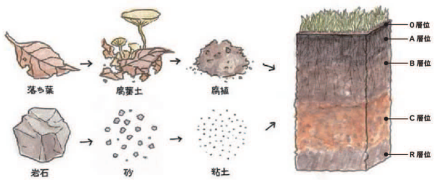
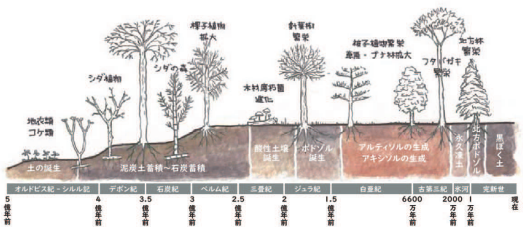
露わにするガラス空間 - 土壌の過去と現在と未来 -

植物の分解による腐植の生成。土壌を耕す小さな生物の営み。根と菌根菌のネットワーク。雨水の保水や浸透。普段、地面の下に隠れていて見ることのできない、土壌の中の現在とこれまでの 5 億年の歴史、そしてその未来を、ガラスの映像性により露わにする空間を考えた。
地球環境の基盤として生命の循環を支えている土壌は、大気中の 2～3 倍もの炭素量を含むといわれている。しかし、人類の産業活動や地球温暖化などにより、土壌の炭素は、大気中へ急速に放出され失わつつある。
そんな環境破壊の当事者である我々人類が、土壌の営みを体感し、思いをめぐらせ、そこに寄り添うための土壌の映像空間を提案する。

生命ゆりかご「土壌」の歴史

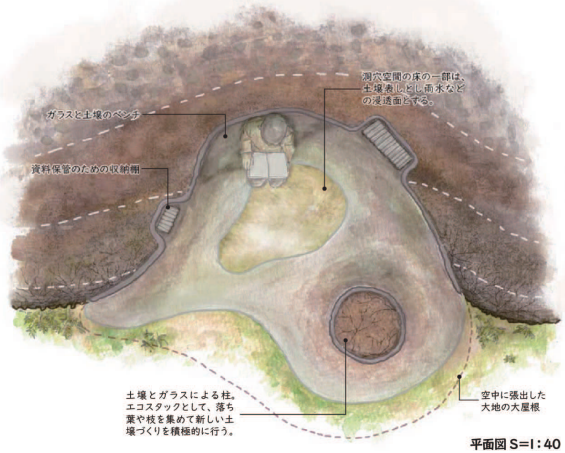
46億年の地球の歴史の中で、今から5億年前まで「土壌」は存在しなかった。植物が 5億年前に、海から陸上への進出を行い、その活動により、大気中の CO2 を有機物として定着させ、一部が腐植となり、粘土などの無機物と混ざり合うことで、少しずつ「土壌」を生成した。5 億年という長い歴史の積み重ねによって生み出された「土壌」は、私たち人類を含めたすべての生物、そして地球環境の基盤として、生命の循環を支えている。



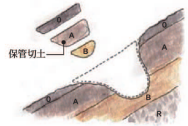


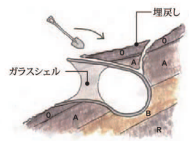
ガラスと土壌　半分建築 / 半分自然

解放されたガラス花瓶のように、大地に溶け合うガラスのシェルは、土壌に形態をあたえながらも生物循環の一端を担う、半分建築 / 半分自然な「ガラス」と「土壌」による空間を生み出す。地面に彫り込まれた洞穴のような空間と、空中に張り出された大地の屋根、それを支える土壌の柱を一体的にかたちづくる。



平面図 S=1:40



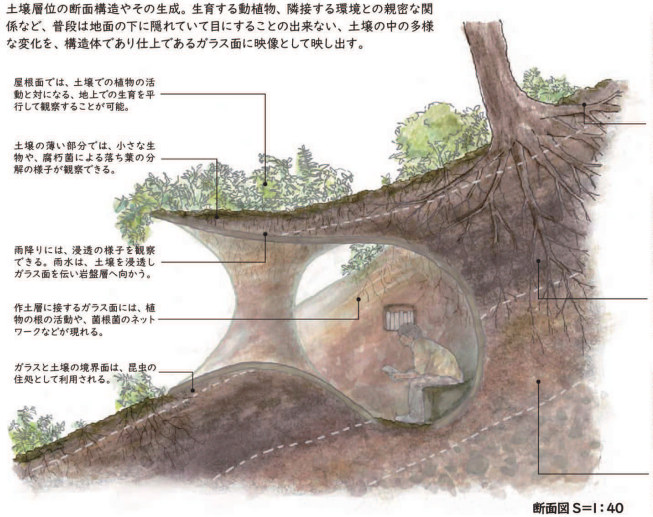


深さ 2m 程度の土壌がある森林を敷地に想定。切土の際には、土壌層位を区分ごとに保管 / 復旧。一連の活動は専門家を交えたフィールドワークとして行う。

有機的で連続的な造形のガラスシェルの一部は、ベンチや資料保管のための収納棚として、一体的に成型される。

隠れているものを露わにする森の隠れ家

土壌層位の断面構造やその生成。生育する動植物、隣接する環境との親密な関係など、普段は地面の下に隠れていて目にすることの出来ない、土壌の中の多様な変化を、構造体であり仕上であるガラス面に映像として映し出す。



断面図 S=1:40

［O 層位］表土層
落ち葉や枝などが降り積もった有機物による層。林床とも呼ばれる。

［A 層位］作土層
腐食と土が混ざった柔らかな層。多様な生物が活動し、多くの細根が根を張る。

［B 層位］下層土層
腐食が少なく A 層からの溶物質が集積する層。集積層とも呼ばれる。